



隈府小だより

学校教育目標「自ら考え なかまと高め合う 隈府小」

隈府小学校
学校だより No21
文責 芹川博文
10月3日(金)

詩の温かさ 言葉の力

～ 隈府小4年 原武 将仁さんの詩から ～

第36回こどもの詩コンクールで、4,000通を超える応募の中から、最高賞である「坂村真民賞」を受賞した4年生の 原武 将仁さんの詩を紹介いたします。

ブタのしごと
四年 はらたけ しょうじん
おかあさんは
ブタのしごとをしています
トラックにブタをのせる
しごとはたいへんです
ブタはあばれるので
おかあさんは
ブタとけんかみたい
エサは あさとよる
きまっただじかにあげるの
であさ早くいえをでます
だから
ほくも早くがっこうにいきます
ゆうがた えさをあげてから
ほくをおむかえにきてくれます
おかあさんはいえにかえると
ふろに入って
よこれをおとします
「くさい。」
って ほくがいうと
にこっとします
おかあさんは
シャンプーでこしこしします
おかあさんは
ブタのしよんべんの
においがします
ほくは、あしがくさいので
あしをこしこしあらいます
ほくもいっしょに
シャンプーをします
おかあさんと
おなじにおいがします

将仁さんのお母さんを思う気持ちが伝わってきます。同時に、仕事、家族、そして命の大切さも。この詩を読んで、私も両親のことを思い出さずにはおれませんでした。牛を飼育して生計を立て育ててくれました。将仁さんの詩を通して様々な場面が思い浮かんできました。

この詩を読んで、「言葉には人の心を動かす力がある」と改めて感じます。誰かのひとことで、嬉しくなったり元気をもらったりして励まされます。同時に、SNS等での誹謗中傷の問題があらわれる昨今、死にまでも至らせる「凶器」ともなる言葉。どう使うかは、一人一人に委ねられています。例えるなら「包丁」と同じです。正しく安全に使わねばなりません。

将仁さんの詩に触れ、人の心を温かくする言葉を大切にしたいと再確認しました。

こどもの詩コンクールのテレビ放送が、10月12日(日)午前11時45分からKAB局「家族のWA!」であるとのことです。撮影のために隈府小にも来られました。是非ご覧ください。

秋の夜 夜風と虫の音 読書のススメ

「下級生だけでなく、上級生もうなずきながら聞いてくれます」「あまりにも真剣に聞いてくれるので、こちらがドキドキしました」 — 読み聞かせボランティアの方からの感想です。身を乗り出して聞き入る子どもたちの様子を見て回りながら、私も朝の爽やかな各教室の空気を満喫しました。

中学校での担任時代、読み聞かせをしたことを思い出します。中学3年生でも童心に帰ったように静かに聞き入ってくれた情景が蘇り、温かな気持ちになります。

夜に虫の音が響くようになりました。夜風も気持ちよく感じるこの季節、デジタルの機器をオフにした読書はおススメです。とは言っても、小学生の頃の私は、決して読書を好んでする方ではありませんでした。ただ、江戸川乱歩の怪人二十面相シリーズやファール昆虫記シリーズなどを借りて読んだ記憶はあります。

隈府小学校では、全学年、週に一度のペースで、図書室で読書をする時間があり、その時に本の貸し借りもします。だいたい3冊借りている子が多いようです。1年間で約100冊の本と出会うことになります。図書司書の末永先生によると、昨年度、1年間に150冊以上読んだ児童は約150人いたとのこと。読書に親しんでいる児童が多いですね。

「人生を豊かにするのは、本・人・旅」との言葉もあります。秋の夜長に、ご家族で読書や読み聞かせのひとはいかがでしょうか。

